

テーマ：ガソリン・灯油価格の上昇が家計に与える影響

発表日：2007年11月21日（水）

～06年と比較して世帯あたり14000円の負担増。地域ごとに大きな違い～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

（要旨）

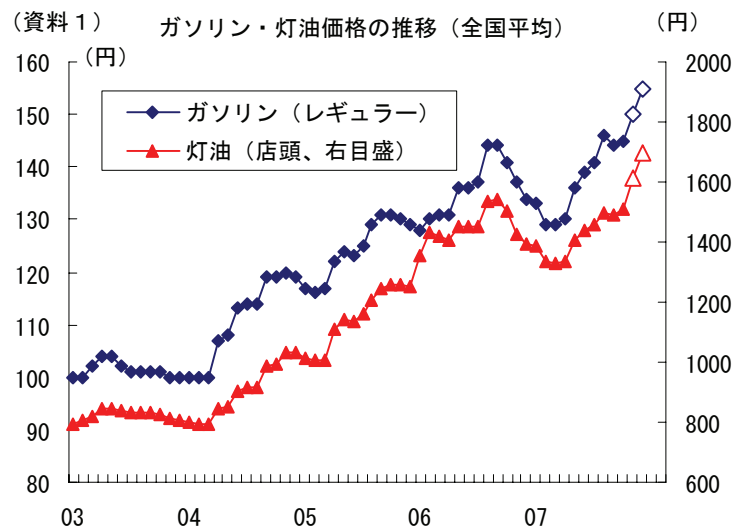
- ガソリン、灯油価格の上昇が続いている。足元で過去最高値を更新していることに加え、12月にも価格は引き上げられる見込みである。
- ガソリンは大都市において消費量が少ない。灯油は、冬場の気温が低く暖房需要が多い地域における支出割合が圧倒的に大きい。こうした支出構成の違いにより、地域ごとに価格上昇の影響が異なる。
- 今後一年間、ガソリン価格が155円、灯油価格が1700円で推移した場合、2006年と比較して一世帯あたり年間14000円の負担増が発生する（全国平均）。地域別でみると、最も負担増加額が多い北海道（2.6万円）と最も少ない近畿（1.1万円）では二倍以上の差がある。
- 今後冬場を迎え、灯油需要も増加してくるため、家計負担の増加から消費が抑制されるリスクに注意が必要である。

○ ガソリン・灯油価格が急上昇

ガソリン価格の上昇が止まらない。石油情報センターが公表している全国のレギュラーガソリンの平均店頭価格（11月19日現在、1リットル当たり）は150.2円と過去最高を更新している。10月平均の145円から5円程度、年度初めである4月時点の130円からみると20円程度の上昇であり、上昇幅はかなり大きい。

また、石油連盟の会長が16日に行った記者会見では、12月出荷分の卸価格はさらに5円程度値上がりするとのことである。このところやや円高が進行していることは輸入金額抑制要因ではあるが、最近の原油価格上昇ペースはそれを上回る。実際にどの程度小売価格に転嫁されるかは不透明だが、12月のガソリン価格（全国平均）が155円程度にまで上昇する可能性が高そうだ。

灯油価格についても同様だ。店頭灯油価格（11月19日現在、18リットル当たり）は1616円とこちらも過去最高を更新している。10月の1508円と比較して100円程度の値上がりである。12月についても卸価格の値上げが予定されており、1700円程度まで上昇する可能性が指摘されている。



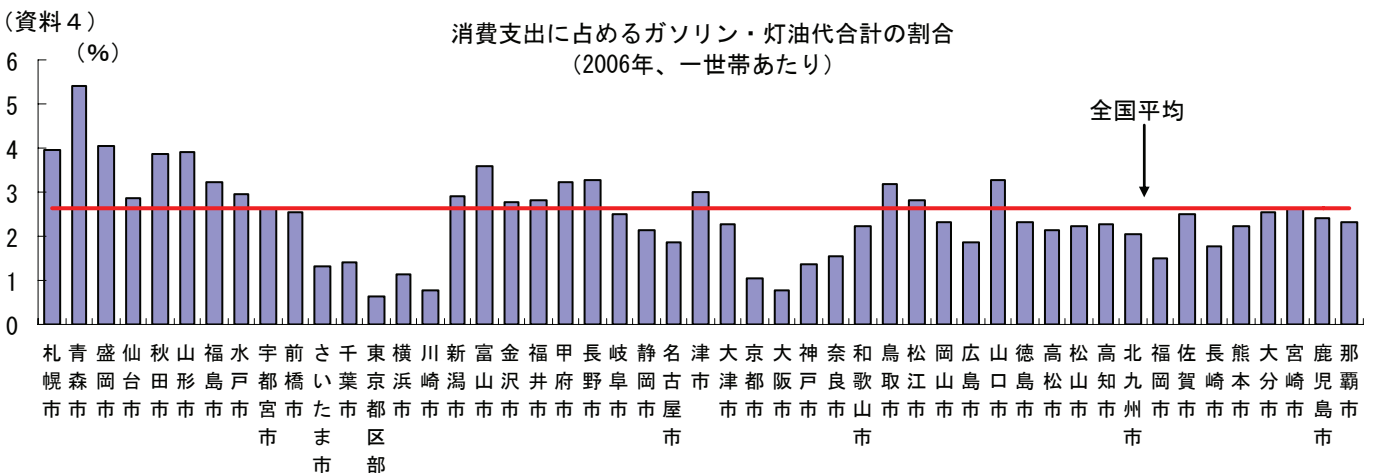
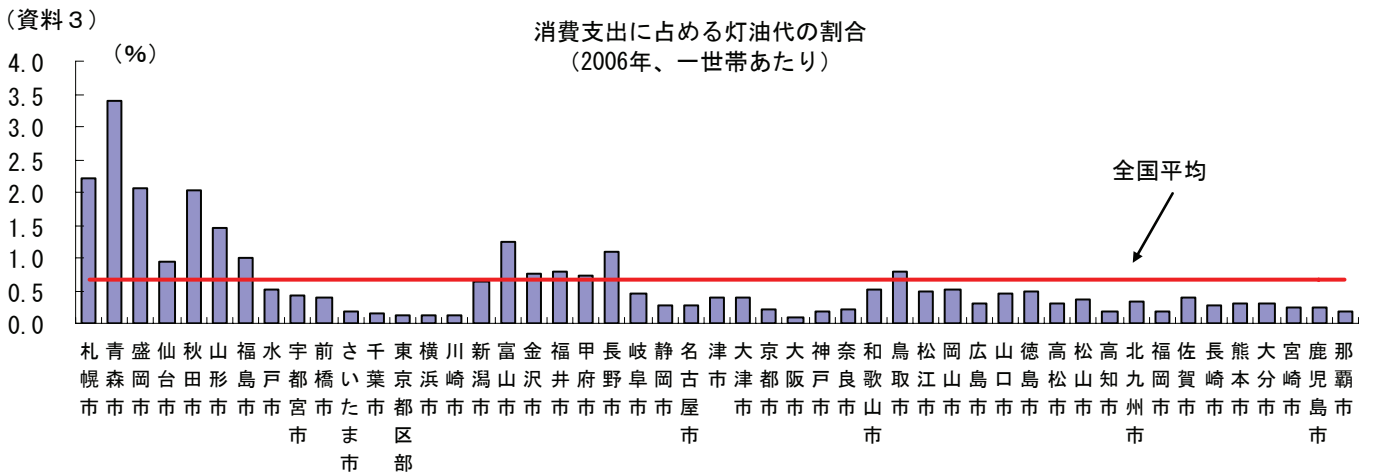
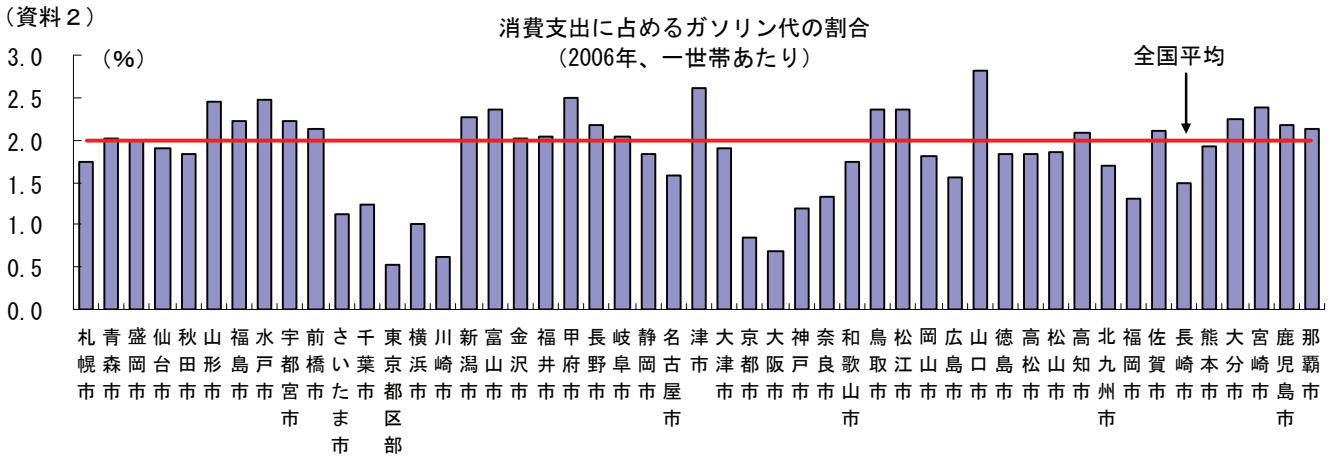
（出所）石油情報センター

（注）07年11月分は19日までの平均、12月分については予想

○ 地域ごとにみた特性

ガソリンにしる灯油にしる生活必需品に近い性格を持つため、価格が上昇したとしても使用量を大幅に減らすことは困難であり、値上がりが家計負担に直結する。なお、ガソリンや灯油価格は、地域によって消費額が大きく異なるという特徴があることにも注意が必要だ。資料2は、ガソリン支出が消費に占める割合を

各都道府県の県庁所在地別にみたものである。公共交通機関が発達している東京や大阪といった大都市ではガソリン支出は相対的に少ないのに対して、自家用車を用いることが多い地方圏では支出が多い傾向がある¹。また、資料3は、灯油についても同様にみたものだが、こちらは、冬場の気温が低く暖房需要が多い北海道や東北地方における支出割合が圧倒的に大きい。



¹ 棒グラフは県庁所在地における世帯あたり支出を示したものである一方、全国平均の値は県庁所在地以外の支出を含む。そのため、県庁所在地における値を平均しても全国平均には一致しないことに注意。

○ 2006年と比較して、一世帯あたり14000円の負担増

(資料5) 今後1年間、ガソリン価格が155円、灯油価格が1700円で推移した場合の世帯あたり負担増加額

	1998年			2006年		試算値	支出増加額	
	品目	平均単価 (円)	支出金額 (万円)	平均単価 (円)	支出金額 (万円)	平均単価 (円)	対98年 (万円)	対06年 (万円)
全国	ガソリン	93	4.4	136	7.1	155	3.6	1.0
	灯油	735	1.3	1447	2.3	1700	1.4	0.4
	合計		5.8		9.4		5.1	1.4
北海道	ガソリン	92	5.4	136	7.4	155	3.1	1.0
	灯油	734	5.3	1434	8.9	1684	5.1	1.5
	合計		10.7		16.3		8.2	2.6
東北	ガソリン	93	5.1	134	8.9	154	5.0	1.3
	灯油	734	3.2	1396	6.6	1639	4.6	1.2
	合計		8.3		15.5		9.6	2.4
関東	ガソリン	91	3.6	134	6.0	154	3.2	0.8
	灯油	778	0.9	1436	1.5	1686	0.8	0.3
	合計		4.5		7.4		4.0	1.1
北陸	ガソリン	95	6.4	136	10.3	155	5.3	1.5
	灯油	801	2.3	1451	4.5	1704	2.9	0.8
	合計		8.7		14.7		8.3	2.2
東海	ガソリン	92	5.7	136	8.4	155	3.9	1.2
	灯油	800	0.9	1455	1.7	1709	1.1	0.3
	合計		6.5		10.1		5.0	1.5
近畿	ガソリン	93	3.4	135	5.6	154	3.0	0.8
	灯油	807	0.6	1445	1.1	1697	0.7	0.2
	合計		4.0		6.7		3.7	1.0
中国	ガソリン	97	5.5	137	8.6	156	4.3	1.2
	灯油	792	1.2	1446	2.1	1698	1.2	0.4
	合計		6.8		10.7		5.5	1.6
四国	ガソリン	96	4.9	136	8.0	155	4.2	1.1
	灯油	833	1.2	1461	2.1	1715	1.2	0.4
	合計		6.2		10.1		5.4	1.5
九州	ガソリン	97	5.1	140	7.6	160	3.7	1.1
	灯油	848	1.0	1495	1.6	1756	0.8	0.3
	合計		6.1		9.2		4.4	1.4
沖縄	ガソリン	93	5.1	132	6.9	151	2.8	1.0
	灯油	966	0.6	1571	1.0	1845	0.6	0.2
	合計		5.7		7.9		3.4	1.2

(出所) 石油情報センター資料、総務省統計局「家計調査報告」から第一生命経済研究所試算

(注) 地域区分は総務省の区分に統一してある

そこで実際に、ガソリン・灯油価格の上昇に伴う家計負担の増加を地域別に世帯単位で試算してみたものが資料5である。ここでは、今後一年間、ガソリン価格が155円、灯油価格が1700円で推移した場合の支出増加額を求めた。これによると、2006年と比較して、全国平均では一世帯あたり年間14000円の負担増になることが分かった。これは年間消費額全体の0.4%に相当する。賃金が伸び悩み個人消費も緩やかな伸びにとどまっている状況下においては、決して小さくはない額と言えるだろう。地域別で見ると、北海道、東北、北陸といった気温が低い地域において灯油支出額が多いため負担増が大きくなっており、最も負担増加額が多い北海道(2.6万円)と最も少ない近畿(1.1万円)では二倍以上の差がある。なお、ここ10年において最もガソリン価格が低かった1998年と比較すると、負担増は5万円を超える(全国平均)。長期に及ぶ原油

価格の上昇が家計負担を増やしている姿が窺える。

もう一点注意しておきたい点は、現在が冬を前にして灯油消費量が増え始める時期であることだ。資料6でも分かる通り、灯油への支出は毎年11月頃から急増し、4月頃まで高水準での推移が続く。灯油支出が他地域に比べて極端に多い北海道や東北地方では、冬場にかけて負担が増加し、他の消費支出を抑制する可能性があるだろう。北海道や東北地方は、他の地域に比べて景気の状態も芳しくないだけに、ガソリン・灯油価格の上昇が与える悪影響が特に懸念される場所である。

